

●編集委員

東浩紀(あずま・ひろぎ)

一九七一年生。批評家。東京工業大学世界文明センター特任教授。著書に「存在論的・郵便的」新潮社、「動物化するポストモダン」講談社現代新書、「情報環境論集(講談社BOX)」、「東京から考える」(北田暁大との共著、NHKブックス)、「クオンタム・ファミリーズ」(新潮社)など。

北田暁大(きただ・あきひろ)

一九七一年生。東京大学大学院情報学環准教授。専攻は社会学、メディア史。著書に『広告の誕生(岩波現代文庫)』『広告都市・東京(廣済堂ライブラリー)』『責任と正義(勁草書房)』『意味』への抗い(せりか書房)、『唾う日本の「ナシヨナリズム」』(NHKブックス)、『限界の思考』(共著、双風舎)、『歴史の(はじまり)』(共著、左右社)など。

●執筆者

東園子(あずま・そのこ)

一九七八年生。関西大学他非常勤講師。専攻は社会学。論文に「女同士の絆の認識」(『年報人間科学』二七号)など。共著に「それぞれのファン研究」(風塵社)、「宝塚という装置」(青弓社)、「セクシュアリティの表象と身体」(臨川書店)など。

稲葉振一郎(いなば・しんいちろう)

一九六三年生。明治学院大学社会学部社会学科教授。専攻は社会倫理学。著書に『経済学という教養』(ちくま文庫)、『モダンのクールダウン』(『公共性』論)、『NTT出版』、『社会学入門』(NHKブックス)、『所有と国家のゆくえ』(共著、NHKブックス)など。

瓜生吉則(うりゆう・よしみつ)

一九七一年生。立命館大学産業社会学部准教授。専攻はメディア論、文化社会学。論文に「少年マンガ」の発見(『戦後日

本スタディーズ②) 紀伊國屋書店)、「女子アナ」以前、あるいは、一九八〇年代/フジテレビ的なるもの、の下部構造(『テレビだよ! 全員集合』青弓社)など。著書に『マンガの居場所』(共著、NTT出版)。

遠藤知巳(えんどう・ともみ)

一九六五年生。日本女子大学人間社会学部教授。専攻は近代社会学、言説分析、メディア論、社会理論。論文に「(顔)の上に書く」(思想)八六一号)、「オウム事件と90年代」(『戦後日本スタディーズ』③ 80-90年代) 紀伊國屋書店、訳書にジョンサン・クレリー『観察者の系譜』(以文社)など。

姜尚中(かん・さんじゅん)

一九五〇年生。東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授。専攻は政治学、政治思想史。著書に『オリエンタリズムの彼方へ』(マックス・ウェーバーと近代)ともに岩波現代文庫、『リーダーは半歩前を歩け』(『悩む力』)ともに集英社新書ほか多数。

小島寛之(こじま・ひろゆき)

一九五八年生。帝京大学経済学部准教授。専攻は数理経済学、意思決定理論。経済学博士。著書に『使える! 経済学の考え方』(ちくま新書)、『無限を読みとく数学入門』(角川ソフィア文庫)、『確率的発想法』(NHKブックス) ほか多数。

佐藤俊樹(さとう・としき)

一九六三年生。東京大学大学院総合文化研究科教授。専攻は比較社会学、日本社会論。著書に『不平等社会日本』(中公新書)、『ノイマンの夢・近代の欲望』(講談社選書メチエ)、『意味とシステム』(勁草書房)など。

菅原琢(すがわら・たく)

一九七六年生。東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。博士(法学)。専門は政治過程論、日本政治。著書に『世論の曲解』(光文社新書)、『現代日本の政治家像』(選挙ボスターの研究)、『参議院の研究』(ともに木鐸社)、『変貌する日本政治』(勁草書房)など。

永井均(ながい・ひとし)

一九五一年生。日本大学文理学部哲学科教授。専攻は哲学、倫理学。日本倫理学会和辻賞受賞。著書に『私・今・そして神』(講談社現代新書)、『西田幾多郎』(NHK出版)、『道徳は復讐である』(河出文庫) ほか多数。

野中広務(のなか・ひろむ)

一九二五年生。五一年園部町議に当選後園部町長、京都府議、副知事を経て八三年衆議院議員初当選。以後、連続七期、九四年自治大臣・国家公安委員長、九八年官房長官、二〇〇〇年自民党幹事長に就任し、〇三年議員引退。全国水士里ネット会長、社会福祉法人京都太陽の園理事長などを務める。著書に『私は闘う』(『老兵は死なず 野中広務全回顧録』)ともに文春文庫) など。

橋爪大三郎(はしづめ・だいさぶろう)

一九四八年生。東京工業大学教授。専攻は理論社会学。著書に『言語ゲーム』と社会理論(『橋爪大三郎コレクション』I)

III)ともに勁草書房)、『はじめての構造主義』(はじめての言語ゲーム)ともに講談社現代新書)、『言語派社会学の原形』(洋泉社) ほか多数。

橋本健一(はしもと・けんじ)

一九五九年生。武蔵大学社会学部教授。専攻は理論社会学、階級論・社会階層論。著書に『階級社会』(講談社選書メチエ)、『居酒屋はろ酔い考現学』(毎日新聞社)、『格差』の戦後史―階級社会 日本の履歴書(河出ブックス) など。

長谷正人(はせ・まさと)

一九五九年生。早稲田大学文学学術院教授。専攻は映像文化論、コミュニケーション論。著書に『映像という神秘と快楽』(以文社)、『共編著』(『映画の政治学』)など。テレビ『オール全員集合』(ともに青弓社)など。

原武史 (はら・たけし)

一九六二年生。明治学院大学国際学部教授、同付属研究所所長。専攻は日本政治思想史。著書に、『民都』大阪対「帝都」東京(講談社選書メチエ)、『大正天皇』朝日選書、『へ出雲』という思想(講談社学術文庫)、『可視化された帝国』(みすず書房)、『皇居前広場』ちくま学芸文庫、『滝山コミュニティ』一九七四(講談社)、『昭和天皇』(岩波新書)ほか多数。

画察特別賞・市民賞受賞。著書に『悪役

レスラーは笑う』(岩波新書)、『死刑』朝日出版社)、『誰が誰に何言ってるの』(大和書房)、『首都圏生きもの記』(学研)ほか多数。

星野伸明 (ほしの・のぶあき)

一九七一年生。金沢大学経済学類准教授。専攻は経済統計学。経済学博士。論文に“A discrete multivariate distribution resulting from the law of small numbers” (*Journal of Applied Probability*, Vol. 43) など。

森達也 (もり・たつや)

一九五六年生。映画監督/作家。一九九八年オウム真理教事件に取材した『A』は大きな反響を呼ぶ。二〇〇一年、続編『A2』で山形国際ドキュメンタリー映